

4 法人の沿革

本法人は東京都葛飾区の現在地に昭和22年洋裁学院を創立、同29年栄養士養成施設聖徳高等栄養学校設立の後、聖徳栄養専門学校に校名変更し、同校は昭和38年聖徳栄養短期大学に昇格しました。また、聖徳栄養専門学校調理師科から独立した調理師学校は昭和52年専修学校 聖徳調理師専門学校として認可、同年千葉県鎌ヶ谷市に幼稚園を開設しました。平成17年短期大学を四年制大学へ改組、名称を東京聖栄大学として開学し今日に至っています。平成19年創立60周年を機に法人名を学校法人東京聖栄大学と改称しました。

昭和22年	4月	オリムピア洋裁学院開校
昭和23年	10月	財団法人オリムピア学園設立認可(文部大臣)
昭和26年	3月	学校法人オリムピア学園に組織変更認可(東京都知事)
昭和29年	3月	聖徳高等栄養学校設立認可(東京都知事)
昭和29年	4月	聖徳高等栄養学校を栄養士養成施設として指定(厚生大臣)
昭和32年	8月	オリムピア洋裁学院を「聖徳服飾専門学校」 聖徳高等栄養学校を「聖徳栄養専門学校」に改称
昭和35年	2月	聖徳栄養専門学校に調理師科を設置。調理師養成施設として指定 (厚生大臣)
昭和38年	1月	聖徳栄養短期大学の設置認可(文部大臣)
昭和38年	3月	聖徳栄養短期大学食物科第1部(後に食物栄養科さらに食物栄養学科第1部と 改称)を栄養士養成施設として指定(厚生大臣)
昭和39年	3月	聖徳栄養専門学校の短期大学昇格に伴い同校栄養本科を廃止、 4月1日より校名を「聖徳調理師学校」と変更
昭和41年	4月	聖徳服装専門学校を「聖徳服装学院」と改称
昭和52年	2月	聖徳服装学院及び聖徳調理師学校を専修学校として認可(東京都知事) 聖徳服装専門学校、聖徳調理師専門学校と改称
昭和52年	3月	聖徳栄養短期大学附属わたなべ幼稚園設置認可
昭和60年	12月	短期大学食物栄養学科第1部専攻課程設置認可 (食物栄養専攻、食品科学専攻) (文部大臣)
平成元年	4月	短期大学食物栄養学科第1部を同第2部廃止に伴い「食物栄養学科」と改称
平成4年	1月	服装専門学校廃止認可。(東京都葛飾区長・文部大臣)
平成6年	12月	調理師専門学校調理師専門課程専門調理技術科(修業年限2年)設置 (東京都葛飾区長)
平成7年	12月	短期大学専攻科食物栄養専攻設置(文部大臣)
平成8年	1月	短期大学専攻科食物栄養専攻学位授与機構長認定
平成8年	12月	調理師専門学校調理師専門課程専門技術修了者に専門士の称号授与の 課程認定(文部大臣)
平成14年	11月	短期大学食物栄養学科食品科学専攻製菓・製パンコースを製菓衛生師養成 施設として指定(厚生労働大臣)
平成15年	5月	公開講座を葛飾区教育委員会と共催実施を締結
平成16年	11月	東京聖栄大学設置認可(文部科学大臣)。開設時期平成17年4月1日
平成17年	2月	健康栄養学部食品学科食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成施設登録 (厚生労働大臣)
平成17年	3月	健康栄養学部管理栄養学科の栄養士養成施設内容変更承認(厚生労働大臣)
平成17年	3月	健康栄養学部管理栄養学科の管理栄養士養成施設の指定(厚生労働大臣)
平成18年	5月	放送大学と単位互換協定締結
平成18年	9月	聖徳栄養短期大学廃止認可
平成19年	6月	法人名を学校法人東京聖栄大学に変更
平成21年	4月	東京聖栄大学健康栄養学部食品学科にフードサイエンスコース、フードビジネスコースを設置
平成21年	4月	聖徳調理師専門学校調理師専門課程調理師科入学定員120名を80名に変更
平成24年	4月	聖徳調理師専門学校調理師専門課程専門調理技術科廃止
平成25年	4月	聖徳調理師専門学校の校名を東京聖栄大学附属調理師専門学校と改称
平成25年	9月	葛飾区と連携・協力に関する協定締結(包括連携協定)
平成26年	2月	健康栄養学部管理栄養学科の教職課程(栄養教諭一種免許状)課程認定 (文部科学大臣)

5 平成26年度入学志願者数、受験者数、合格者数、入学者数、卒業者数

東京聖栄大学 健康栄養学部

学科	定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	卒業者数
管理栄養学科	80	412	397	161	91	89
食品学科	80	163	159	137	93	72
計	160	575	556	298	184	161

東京聖栄大学附属調理師専門学校

学科	定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	卒業者数
調理師科 (1年課程)	80	70	70	70	70	69
計	80	70	70	70	70	69

東京聖栄大学 附属わたなべ幼稚園

	年少	年中	年長	計	卒園児数
定員	90	105	105	300	105
新入園児数	80	14	3	97	
園児数計	87	105	105	297	

参考

〈平成27年度入学志願者数、受験者数、合格者数、入学者数〉

東京聖栄大学 健康栄養学部

学科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
管理栄養学科	80	443	413	243	89
食品学科	80	138	132	125	74
計	160	581	545	368	163

東京聖栄大学附属調理師専門学校

学科	定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
調理師科 (1年課程)	80	53	53	52	51
計	80	53	53	52	51

東京聖栄大学 附属わたなべ幼稚園

	年少	年中	年長	計
募集人(定)員	90	105	105	300
新入園児数	78	9	2	89
園児数計	84	94	107	285

参考

平成27年5月1日現在

入学定員、学生数の状況

東京聖栄大学 健康栄養学部		入学定員	収容定員	現 員
管理栄養学科		80	320	341
食 品 学科		80	320	340
計		160	640	681

東京聖栄大学附属調理師専門学校		入学定員	収容定員	現 員
調理師科		80	80	51
計		80	80	51

東京聖栄大学附属わたなべ幼稚園		入学定員	収容定員	現 員
		300	300	285

Ⅱ 平成 26 年度事業概要

平成 26 年度の事業概要について下記のとおりご報告いたします。

<大学教育研究>

1 自己点検活動

PDCA 活動に基づく自主的・自律的な自己点検活動を平成 26 年度も実施し、教育の質保証に努めました。さらに、平成 24 年度～平成 26 年度における自己点検活動について、平成 27 年 1 月 31 日付で「平成 26 年度自己点検・評価報告書」として取り纏めました。本内容は、社会への説明責任を果たすべく、大学ホームページ上に公表を行いました。

2 FD 活動

平成 26 年度は、教科打ち合わせ会、教員による授業公開（前後期）、授業評価アンケート（前後期）、FD 研修会を実施し、教育内容の改善に努めました。授業公開は、今年度より全専任教員に公開と参観を義務付けることにより、全学的な取組みに発展しました。授業評価アンケートは、通常のアンケートに加え、学生の学修状況を把握し単位の実質化に繋げる為、授業時間外学習状況調査を新たに実施しました。研修会は、SD との合同研修に加え単独でも FD 研修会を実施し、アクティブ・ラーニングについての講演やワークショップ、授業改善の討議を行いました。

さらに、平成 26 年度の活動内容を「FD 活動報告書」として取り纏めました。

3 教育課程

管理栄養学科は、栄養教諭養成の課程認定を文部科学大臣から承認されたことを踏まえ、念願であった栄養教諭（一種免）の養成を開始。併せて、厚生労働省関東信越厚生局長の承認を得て、横断的な科目の導入等を特色とした新カリキュラムを実施しました。なお栄養教諭養成にあたり必要となる科目『学校ボランティア』の実施受入れなど、本学からの依頼に対して、葛飾区教育委員会のご好意により、平成 26 年 12 月 12 日付で、本学と同教育委員会との間で「連携協力に関する協定書」の締結を行い、教職課程の円滑な実施環境を整えることができました。

食品学科においては、新規科目『キャリアリサーチ』を 2 年次から導入する教育課程の改正を文部科学省へ届け出し、社会的・職業的自立（＝就職）に向けた学修の充実を図りました。

また、これら教育課程の改正・充実が有効に学習効果を高められるよう、教務委員会を中心として教務事項に係わる諸方策の検討を推進しました。

4 就職支援

就職支援体制の充実のため配置した「就職支援アドバイザー」が通年で就職支援したほか、迅速な求人情報提供、学内での業界・企業説明会の開催、公務員志願者へのきめ細かな指導・アドバイス、各年次に即した就職支援のためのガイダンス・講座を適時に実施したほか、平成 26 年度は新たに、①専門機関に依頼して開講する公務員講座受講料の一部を校費で負担し公務員志願学生への支援を強化したほか、②正式開講に先駆けた『課外講座キャリアリサーチ』の実施、等々を通じて、学生の就職活動支援を充実・推進しました。

就職状況

就職内定率 学部合計 97.4% (前年 96.5%)

主な内定先

- <公務員> 川崎市栄養士(非常勤) 練馬区栄養士(非常勤)
- <管理栄養士職> 市川会特養ホワイト市川、照陽会特養みんなと暮らす町
天寿園会特養椿、市川朝日会老健市川あさひ荘
東京愛育苑向島学園、青梅ゆりかご保育園、かみこまつ保育園
高砂福祉会、どんぐり保育園、のぞみ保育園
(株)グリーンハウス(4)、日清医療食品(株)(13)、富士産業(株)(18)
- <一般企業> イニシオフーズ(株)(3)、(株)大戸屋(3)、(株)ジェイプロジェクト(2)
(株)ジャパンビバレッジホールディングス、(株)叙々苑(3)、(株)ドンク(2)
日東ベスト(株)(2)、(株)ブロンコビリー(3)、(株)マルエツ(2)
明治屋産業(株)(2)、目黒雅叙園、(株)らいふ(2)

5 資格取得の支援

一 管理栄養士国家試験

平成 26 年 5 月 9 日に発表された第 28 回管理栄養士国家試験について、本学 6 期生の合格率は 86.9%でした。本年 5 月 8 日に発表された第 29 回管理栄養士国家試験について、本学 7 期生の合格率は 100%であり、開学 10 周年の節目にあたり、全員合格を達成しました。今後も、国家資格の確実な取得・合格に向けて、更なる指導・支援を行ってまいります。

- 一 食品学科では、食品衛生管理者・食品衛生監視員(任用資格)、フードスペシャリスト資格、フードサイエンティスト資格取得支援のほか、平成 24 年度に登録機関として認定された食品微生物検査技士資格は 2 名が合格しました。

6. 研究活動の活性化

一 研究環境の充実

大学の質の向上が求められている観点から、研究レベルの向上は必要不可欠の要

件であり、学内研究費による研究活動については、特に若手研究者（教員）支援に重点を置いて研究費を支給したほか、7月26日には研究発表会を開催するなどして研究の活性化を図りました。

また、タイ国立カセサート大学の教員3名を平成26年6月2日日本学に迎え、「タイ国における米加工学の改革」と題する基調講演、本学教員・学生とのディスカッションを行うなどの国際的な研究交流を行いました。

一 受託研究

平成26年度は、復興支援の観点も含めて本学が継続的な支援を続けている福島県塙町からの「塙町産農産物等を使用した加工食品の開発」を受託し、本学食品学科を中心としたプロジェクトチームによる研究活動が実施されました。また、葛飾区から「『かつしかの元気食堂』推進事業に関する研究」を受託し、本学管理栄養学科を中心としたプロジェクトチームによる葛飾区の地域に根ざした食育推進、区民の健康・増進を図る推進事業の研究活動が実施されるなど、産学官連携を更に推し進めました。

一 公的研究費

平成26年度は、日本学術振興会の二国間交流事業共同研究「中国との共同研究（CASS）」が本学教員を日本側共同研究代表者として採択され、両国研究者により研究活動が実施されました。また、公的研究費の採択増加を目的に、関係部署の情報共有化を進め、教員支援の強化を図るべく担当職員の育成に努めました。

さらに、文部科学省の定める「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」改正等を踏まえ、特に公的研究費を受けた研究についての適正な研究活動の基盤となる学内体制の整備を行いました。

7 大学図書館

大学図書館については、専門書・政府刊行物を含む統計資料の充実等、蔵書構成やレファレンスサービスの充実に努めた他、平成26年度は、本学関係資料の収集と保存（新聞・雑誌等に紹介された本学関係記事を含む）、本学教職員著作物の収集及びコーナーの設置、機関リポジトリ開設準備、葛飾区立中央図書館との連携に基づく食育月間に因んだ読み聞かせ会への学生派遣、LED照明への取替え（2階）による環境改善等を行いました。

26年度 年間延入館者数 21,450人 貸出冊数 学生 5,565冊 教職員 3,194冊

8 入試関係

平成26年度実施（平成27年度入学）の入試については、両学科アドミッションポリシーに沿った選抜を行うべく、指定校制・公募制推薦入試に履修条件を設定するとともに、食品学科学学生募集強化の観点に立ち、自己推薦入試・食品学科特別入試を新設し

ました。

また、学生募集活動にあたっては、本学の魅力を伝える日常的な広報活動やオープンキャンパス等に教職員が注力し、結果として、5年連続して学部定員を上回る入学生を迎えることができました。

9 4号館改修工事

平成25年8月に竣工した7号館に、食品加工実習室、微生物学実験室、食品官能検査室が設けられたことを踏まえ、昭和62年に建築された4号館を改修し、教職課程諸室（教職実践演習室等）、学生カウンセリング室、共通教育センター用室、エレベーター設置・入口スロープ設置等のバリアフリー工事、研究室・教室の配置改修等を実施し、教育研究環境の改善を行いました。

<併設校>

一東京聖栄大学附属調理師専門学校

- ・平成25年度に校名変更を行ったことを踏まえ、さらなる大学との連携強化のため、「防火・防災訓練」「海外研修旅行」を合同実施しました。大学からの調理技術研修生の受入れは11名（前年度5名）。研修生は、わんぱく相撲葛飾区大会の模擬店出店、体験入学のお手伝いなど生徒の募集活動にも活躍しました。

- ・施設・設備

デモンストラーションルームのカメラ交換及びプロジェクターの設置（後援会寄贈）
LAN 整備 ルータ更改

- ・就職支援

就職活動の実施にあたり6月・7月に就職ガイダンスを実施。夏休み直前には外部講師と卒業生を招いての就職相談会を開催し、9月からの就職活動に備えました。

就職状況

内定率 85.2% （前年 93.6%）

主な就職先 日本料理、西洋料理、給食関係 各 20～28%

中国料理 13%、製菓他 17%

山の上ホテル、森トラスト・ホテルズ&リゾート、ホテルイースト21東京
ヒルトン成田、浦安ブライトンホテル、リゾートトラスト、カーディナル
サッポロライオン、東京エアポートレストラン、根ぎし宮川、竹葉亭、赤坂飯店
中条商事、メフォス、西洋フード・コンパスグループ、コスモ企業、藤給食センター

- ・学校生活の充実を図り、次年度に生かすため、継続的な取り組みとして、卒業時アンケート調査を実施。

- ・平成 27 年度からの調理師養成施設指導要領の改正に沿って、本校のカリキュラム改正を検討し、所管官庁へ学則変更申請を行いました。新カリキュラムの実施にあたっては、これまで以上に東京聖栄大学教員との連携（非常勤講師依頼等）を行い、充実した授業内容を目指しています。

一東京聖栄大学附属わたなべ幼稚園

・給食・食育活動

鎌ヶ谷市内では数少ない自園式給食を生かした食育活動・指導を推進しています。

平成 26 年度は給食施設改修工事完成に伴い、東京聖栄大学の学生・教員との連携による食育指導として、アレルギーによる除去を必要としない、園児みんなが同じ献立を食することが出来るクリスマス給食にチャレンジしました。様々なアレルギーに対応する献立作りは、これからの給食・献立作りにも多大な可能性を与えました。

また、園長が市の食育推進部会に参加し、園児たちによる作品展のテーマ「食育」を市内で発表したことは大きな成果となりました。

・預かり保育の充実（子育て支援）

預かり保育、長時間保育を希望する保護者への積極的対応を行っています。

・給食施設改修工事

食育の充実、給食の安全・衛生管理、大学と附属幼稚園との連携強化等の観点から構想された給食施設改修工事は、平成 26 年 8 月 1 日に着工し、関係者の努力により平成 26 年 11 月末に完成。29 日には関係者列席の下、竣工披露(内覧会)を挙行了しました。新給食室は HACCP 方式を取り入れた最新の施設・設備となり、この機会を利用し、園児保護者のみならず、近隣住民の方への試食会も開催し、幼稚園運営への、ご理解・ご協力を仰ぐ機会ともしました。

<地域貢献、公開講座>

地域貢献、公開講座等の取り組みとして平成 26 年度は次の事業を行いました。

1 公開講座

葛飾区教育委員会との共催で、大学 3 講座（日本の食文化講座、キッチンハーブ講座、健康栄養講座）、専門学校 1 講座（調理実習講座）を実施しました。できる限り多くの方に受講いただく為に定員を増やした結果、平均倍率は 2.41 倍（前年 3.92 倍）と、受講希望者のニーズに応えました。

2 地域貢献・社会貢献

平成 26 年 9 月 30 日付で締結した葛飾区との包括連携協定に基づき、美化プランターの設置管理や「かつしか知っ得メモ」による食育等の経常的な事業に加え、平成 26 年度は新たに、「かつしかの元気食堂推進事業」への協力、NPO による高齢者食育活動

への支援、大学に近接する新小岩公園を会場にして開催された「第1回かつしかフードフェスタ」への協力、各種審議会への教員の派遣等を行ったほか、学生主体での地域貢献・社会貢献活動が様々に展開され、関係方面から高い評価をいただきました。

また、(一社)全国栄養士養成施設協会の助成を得て『親子で学ぼう楽しい食育(サンデークッキング)』事業、(公社)日本フードスペシャリスト協会の助成を得て『ワンダーワールド・葛飾の食探求展』に取り組んだほか、大学の所在する地元である新小岩地域の自治会・商店会からの要請も踏まえて、地域の活性化事業に参加・協力を行いました。

3 講師派遣

71件(特別講座を含む)

<管理運営>

管理運営に関する主要事項は以下のとおりです。

- ・管理運営体制整備
理事会による学園全体の適正運営 常務理事会の月次定例開催
内部監査と改善
- ・財務基盤の強化
収入確保並びに支出統制 財務分析
競争的資金導入 寄付金増収への努力 人件費抑制
- ・教職員人事関係
教員年齢構成のバランスと活用 将来を見据えた育成(教員・職員)
SD・FDの推進
事業主行動計画等を踏まえた「教職員就業規則」改正(平成26年10月実施)
健康保持増進奨励のため「人間ドック利用費用補助支給制度」を創設実施
(法人独自制度 平成26年度利用者7名)
- ・防災
年次計画に基づき保存食・防災資機材を充実 炊き出し機材等の使用訓練
防火・防災訓練実施 平成26年度は新たに「学生安否確認システム」実施

<学校教育法改正への対応>

教授会の役割の明確化、学長のリーダーシップ・ガバナンスを主旨とする学校教育法及び同法施行規則の改正が行われ、平成26年度中の対応を求める文部科学省通知が発出されたことを踏まえ、法改正の主旨に沿い、本学の対応方針を検討・決定し、その方針に基づき、大学の学則改正、教授会規程等の規程改正、大学運営会議設置(学部長・学科長会議の改組)等を行ないました。

<施設設備 教育環境整備>

- ・ 大学図書館棟 ①2階・5階 LED 照明に取替（葛飾区補助金導入）
②南面外壁ガラスブロック目地シーリング工事
- ・ 給食管理実習棟屋上防水工事
- ・ PCB 廃棄（コンデンサ）4 台処分
- ・ 大学1号館123 栄養系調理実習室ガス給湯器設置工事
- ・ マイクロ波プラズマ原子発光分光分析装置設置（文部科学省補助金導入）
- ・ 大学学内 LAN 整備
 - ①学生 web フィルタリング更改工事
 - ②学生用デスクトップ PC 増設及び更改、新任教員用デスクトップ PC 設置
 - ③サーバ関連工事
 - サーバ増設及び既存サーバの OS 変更
 - メールシステム、教職員共有システム、学籍教務／法人会計システムなどのバージョンアップ 光回線切替え UPS 更改工事
 - ④4号館改修工事関連
 - 架空線延長融着工事及び光終端工事
 - 情報コンセント設置工事、ネットワーク機器類の設置設定工事
- ・ 4号館改修、幼稚園、専門学校は前掲

以 上